ジョウビタキ

東谷津レポート

（会員　山梨光明／写真）

コハナバチの仲間

ヤマアカガエル

沼田眞賞授賞式で記念講演

第12回沼田眞賞(※1)を、研究者など個人4人の方と当会1団体が受賞し、今年2月3日に江東区の清澄庭園・大正記念館で授賞式が行われました。

授賞式終了後、各受賞者による記念講演に移り、当会からは、飯能市における里山保全活動について話をしました。

講演内容は、天覧山・多峯主山の歴史概観を説明した後、飯能市街地周辺における70年代の丘陵地開発の状況、その時代の飯能市民による自然保護運動を前置きとして、1995年の新たな開発申請に対しての「変更を求める署名運動」及び「保全のための直接請求運動」など当会の発足経緯について触れました。

その後、開発着手寸前のオオタカ営巣発見により工事の着工延期となり、自然環境調査報告書の作成など自然の大切さを訴える地道な活動を継続。そして、2005年の西武鉄道による開発中止宣言があり、以後、当会はNPO法人を取得して新たな活動を展開してきたことを伝えました。

後段は、はんのう市民環境会議による天覧山谷津の里づくりプロジェクト、2008年の全国雑木林会議ｉｎ飯能の開催、同年環境省モニタリング1000調査活動開始、2009年の東谷津トラスト地の取得とその後の活用、2010年の市民・行政・事業者が協働体制をとる記念的里山シンポジウムの開催、といった活動経過をお話させて頂き、最後に今後の里山保全への展望で締めくくりました。

20世紀後半の高度経済成長の時代には経済的価値ゼロとして見捨てられそうになった里山の自然が、現代社会にとって大切なものとして意識が共有化されて来ています。こうした社会の形成に今後も尽力していく事に期待を込められての今回の受賞となったのではと感じています。

（てんたの会代表　浅野正敏）

浅野会長が授賞式に参加してきました。

※1　日本の代表的環境ＮＧＯである日本自然保護協会が、平成元年の設立50周年を記念して、自然保護や自然保護教育に関する研究や実践ですぐれた実績を挙げた者を顕彰し奨励する「沼田眞賞」を設立。

（背景：クロボシツツハムシ）

【特別寄稿】

開発から森づくりへの転換

西武鉄道株式会社 管財部　菊地 三生

2008年５月に天覧山と多峯主山に挟まれた森を「飯能・西武の森」と名付け、森づくり事業を開始、今年で5年目を迎えることになりました。この間、間伐・枝打ち等の整備を進めた結果、安全・安心の明るい森になり、飯能市エコツーリズムの重要拠点にもなりました。森づくり事業を支援していただいた行政・市民・自治会・環境団体・ボランティア等の方々に御礼申し上げます。

さて、当社が住宅地開発から森づくりへの転換に至った経緯を簡単に述べさせていただきます。

1967年から住宅地建設等を目的に用地の取得を開始、1968年に都市計画法が制定され、1970年に市街化調整区域になりましたが、1979年に76haが市街化区域に編入され住宅地建設が可能になりました。当時は戦後のベビーブーム世代が家庭を持ったこと、首都圏への人口流入増加の二点から、住宅地の大量供給が社会的急務でした。また、高度経済成長期でもあったため、勤労者がマイホームを持つことが経済的に可能となり、郊外住宅購入がブームでもありました。飯能では美杉台、飯能日高の大規模分譲地が造成され多くの人が移り住んで来ました。

ところが1990年代に入ると少子高齢化社会となり、郊外住宅の需要に陰りが生じたことにより2005年に住宅地建設を断念、翌年4月に市街化調整区域に編入されました。地球環境の悪化が問題となり、自然環境保全の必要性の高まりを受け、2008年５月に企業の社会的責任（ＣＳＲ）の一環から、環境保全に貢献する土地利用に転換いたしました。

最後に、当社は「飯能・西武の森」を沿線住民・飯能市民の方々に親しんでいただけるように、地域の方々と協働で森づくり・里山再生を進めていきたいと考えております。

写真提供：西武鉄道株式会社

気になりますね…ネオニコチノイド系農薬 本と映画の紹介

Neonicotinoid

1990年代初めから世界各地でミツバチの大量死や大量失踪がニュースとなっていましたが、なんと、2007年春までに北半球から4分の1の蜂が消え、2009年、日本全国の2億匹のミツバチが1年で死んだそうです。

その直接原因とされているのがネオニコチノイド系農薬。ネオニコチノイドは神経毒性、残効性、浸透性の強さが特徴で、ミツバチはもとより、他の昆虫類、生態系、人への影響が懸念されています。ＥＵなどでは既に使用禁止となった国もあります。

てんたの会でも2010年の総会終了後に、「ミツバチからのメッセージ」という映画を見せていただき、映画製作に関わられた御園孝さんからお話をうかがいました。それ以来、身近な自然環境の変化が気になっています。我が家は標高400m程の山里にあり、住んで30数年になりますが、ここ10年程の間に急激に虫が少なくなってきたと感じています。以前、夏の夜などは驚くほど沢山の昆虫が飛んできましたが、最近はめっきり少なく、それに伴い昆虫を捕食するカエルや鳥も激減しています。

ネオニコチノイドは、イネや野菜、果物などの農産品への使用のみならず、松枯れ防除やシロアリ駆除、家庭用殺虫剤、ペットのノミ取りなど、私たちの生活の中に蔓延しています。

早急に対策を取らなければ、日本の生態系はどうなってしまうのかと、本当に心配です。ネオニコチノイドに関する本やＤＶＤなどをいくつか紹介します。みなさんもぜひ調べてみてください。

（会員　早瀬あかね）

本

『新農薬ネオニコチノイドが日本を脅かす　もうひとつの安全神話』　水野玲子著
（2012年、七つ森書館）

本

『虫がいない 鳥がいない 』
久志 冨士男・水野 玲子
共著 （2012年、高文研）

DVD

『ミツバチからのメッセージ』
企画・製作
ミツバチを救え！DVD製作
プロジェクト実行委員会
mitubachi-sukue@kph.biglobe.ne.jp

DVD

『赤とんぼがいない秋』
制作委員会 岩崎充利
埼玉県比企郡小川町角山894-2
〒355-0316
Tel&Fax 0493-74-6134
✉akatonboinai@gmail.com

■ネオニコチノイド系農薬中止を求めるネットワーク
http://no-neonico.jp/about_vision/

■ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議
〒160-0004　東京都新宿区四谷1-21戸田ビル４階
Tel:03-5368-2735　Fax:03-5368-2736

Neonicotinoid

珍獣ヤマネが飯能に生息！

「うちの猫がヤマネを捕ってきたよ。」

当会の昨年12月の定例会での参加者の何気ない一言は、私には衝撃的だった。その写真を送ってもらうと確かにヤマネだ。猫が捕ったのは2度目だとのことで、生息は間違いない。

飯能の、それも標高４００ｍ程度の山間地にヤマネがいるはずがない。国の天然記念物・ヤマネは埼玉県では秩父だけに生息している（県レッドデータブックでは、秩父市や両神山等に生息するとある。飯能市の報告書にも生息の記録はない）。近くでは高尾山にいることは知っていたが、ヤマネは広葉樹林を好み、杉檜林ばかりの飯能にはいないという思い込みがあった。しかし、知り合いに聞いてみると、「高校生の頃、名栗に観察に行った」「昔、天覧山で見たことがある」との話まで出てきた。こんな珍獣が生息しているのに知られていないのは、飯能エコツーリズムにとって損失だ。ＴＶ等でも紹介されるなどヤマネは可愛く人気があるので、エコツアーの目玉になるだろう。一方、市内での保護意識も高める必要がある。そこで、当会で、飯能市のヤマネ生息調査を行うこととなり、飯能市も支援してくれることになった。

調査開始に先立つ3月、ヤマネで有名な八ヶ岳を訪問した。筑波大学八ヶ岳演習林ではヤマネ調査を行っており、現地を案内していただいた上、飯能での調査を無償で支援してくれることになった。調査は、筑波大学が開発した軽く設置の容易な巣箱を使用して、巣材の持ち込みの有無で生息を確認する。このほか、山間部の方々から情報提供を求め、過去からの生息状況をまとめたい。

（ヤマネ調査隊　大石　章）

調査にご協力ください！

調査巣箱のヤマネ（提供・筑波大学八ヶ岳演習林）

調査では、夏までに90個の巣箱を山間部各地に設置する予定です。設置に御協力をいただける方は御連絡ください。また、過去現在を問わず市内でヤマネを見た（聞いた）ことがある方は、是非御連絡ください。講演会もおいでください。

ヤマネ講演会

入場無料

6月9日(日)　14:30～16:30
富士見地区行政センター（公民館）集会室
講　師：筑波大学八ヶ岳演習林・杉山昌典氏
連絡先：ezh01701@nifty.com（大石）
042－974-1691（浅野）